

## 5 今後の課題と展望

### (1) ワークショップ型授業の問題点

- ・実施までの準備に労力と時間がかかる。
- ・集団での学習では、協力や責任の態度を育てる長所もあるが、有能な生徒が独占的になり、傍観者的な生徒が出ることもある。
- ・実際の、技能的、態度的な面が重視され、理論的な面がおろそかになりやすいため、基礎的な知識が習得されにくい。
- ・学習効果の評価が難しい。

### (2) ワークショップ型授業の留意点

- ・成果を得るためには、学習に入る前に、綿密な計画を立て、教材の調達、作業の分担などの準備をする。計画、作業、整理といったまとまりのある教育活動となるためには、生徒が主体性を発揮できる学習環境や条件を整え、問題解決に適切な指導を与える。
- ・学習活動の途中で困難や障害に出あっても、それを自力で乗り越えるように支援し、最後までやりとげたという達成感を味わえるようにする。
- ・共同して作業する課題では、作業の分担や協力が円滑に行われるように指導する。
- ・実施後、作業のまとめや自己評価を行わせ、基礎的な知識、技能の習得、定着を図る。
- ・ワークショップ型授業では、科目外で得た知識、技能を確実にし、発展させる。
- ・ワークショップ型授業が効果的に行われたかどうかを評価し、その後の指導に役立てる。

### (3) これからへの展望

変化の時代は生涯学習の時代であると言われる。変化の時代は、事実認識に追われる時代であり、事実認識の結果を覚えるのではなく、事実認識の方法を身に付け、自ら主体的に事実認識をしっかりと行っていくことができるようにする必要がある。したがって、これからの時代を生きる人間は、現状や現時点までの社会的事象を知識化して身に付けるといった、いわば覚えるという学び方では十分ではなく、見方や考え方、問い方や調べ方といった方法的なものを中心にした学び方を身に付けることが求められている。

ただし、知識を軽視してはならない。サッカーのルールを知らなければ、サッカーに関心をもつのは難しい。それと同様に、変化する社会に関心をもつためには、社会に関する基礎的な知識を身に付ける必要がある。社会生活を営む上での基礎・基本といった観点からフィルターをかけ、社会認識を深めるための座標軸になるような基礎的な知識については、しっかり身に付けさせる必要がある。

変化の時代、生涯学習の時代での基礎学力は、知識と学び方の両面から検討する必要がある。今一度、学習指導要領の示す内容や方法を見直し、知識の厳選と学び方を学ぶ学習の充実を図り、知識と学び方の両立をめざした授業改善を進めていくことが大切であるとする。